

【様式】

令和5年度 高志高等学校 学校関係者評価書

(問)

- ・アンケートの分析、学校の自己評価が適切であったか。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。

(意見を聞いた方)

PTA役員5名

○自ら学ぶ生徒を育てる

- ・「探究創造にふさわしい授業づくりや学習指導計画の作成に取り組む」の項目で、対昨年度比で教員の評価が急上昇しているが、これらはどのような改善の結果なのか。「検討する」ことは成果・結果ではなく過程なので、この判断基準の適切さも今後の検討課題にするとよい。
- ・探究に関する各種コンテスト等の参加への呼びかけについて、生徒に多くの情報を示して欲しい。また、生徒自身が自ら探して来るようにヒントを与えて欲しいと思う。

○生徒の夢・希望の実現を支援する

- ・生徒が進路目標を見つけることは、何がきっかけになるかはわからないので、今後も多くの情報を提供して欲しい。生徒が、自ら情報収集をするよう促して欲しい。
- ・「職業や大学・学部調べ・・・」の成果指標にて、学年別に前年との比較がなされているが、この比較の母集団(比較している学年)は別なのか、または、同じなのか。例えば、R4の2年生の数値が87.6%、R5の3年生の数値が89.6%で、この集団が同じなのであれば、この学年全体の傾向として評価が低い可能性もあるので、比較方法が明確だといえると思う。

○豊かな情操の涵養

- ・読書へのハードルが低い電子媒体での書籍を読む機会が増えている中、紙媒体での本を読むことの良さを周知していく必要があるのではないか。
- ・中学校だと読書習慣と成績の関連を示す研究結果が出ているが、読書に関する項目の評価が一番低いのに、やや驚いた。判断基準そのものが項目の達成度を測るための指標となっているのか疑問にも感じた。

○広報

- ・いずれも適切であった。

○ICT活用の促進

- ・いずれも適切であった。

○安心して学べる環境

- ・自分の健康は、自身で守っていく意識を高校生から持つことは、とても重要なことだと考える。心と体の健康に対する意識づけを今後も進めて欲しい。

○働き方改革

- ・教員自身の取り組みに対する評価が高いので安心した。しかし「労働者」としての働き過ぎを改善するための継続的な取り組みが、今後も重要だと考える。

○総合

- ・社会に貢献するリーダーとしての意識の取り組み指標で、生徒らの自己効力感(Self-Efficacy)のようなものが低いように感じられた。生徒に対する設問の問いが非常に大きいかからかもしれないが、そのための改善策として、もう少し身近で具体的なものがあるといいと感じた。
- ・今後も全ての生徒が、何かしらのグループのリーダーとなり、最後までやり遂げる経験をさせて充実した学生生活を送って欲しい。
- ・社会に貢献するリーダーとしての生徒の意識が目標に達していない。それでも高いポイントだと感じるが、国際比較においても日本の若者の自尊感情の低さが課題となる中、探究活動や地域の取り組みに参加することによって対外的に感謝されるような機会をより充実させてほしい。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

- ・中高一貫校としての効果的な取組について、これまでの経験を生かしながら、今後も検討を続けていく。特に、生徒の探究力や課題解決能力を高めるとともに、自尊感情、自己効力感の醸成にも働きかける。
- ・生徒の主体的に取り組む姿勢、リーダーとしての資質の育成に努める。教員が「伴走者」として発達段階に応じた適切な課題を設定し、より一層充実した指導を企図していく。
- ・自らの進路実現のため、生徒が自主的に目標を定め、行動するための情報の提供に努める。進路指導を、PTA・保護者と連携しながら一層充実する。
- ・学校からの情報発信に学校ホームページやGoogle Classroomを活用するとともに、保護者への連絡文書のデジタル化やアンケートの電子処理化等の情報機器の活用を進め、発信側・受信側双方の利便性の向上に取り組む。
- ・今後ともPTAとの連携を密にとりながら、学校運営をすすめていく。